

## 付・2009(平成21)年度 尾道学講座紹介

2009年度に行われました尾道学講座についてご紹介いたします。前年度同様に、大変好評を博しながら終了することができました。

本書掲載の各文章は、この時の講座がもとになっております。講座に参加された方はその時の講座を思い出しながら、また参加されなかった方は講座の様子を想像しながら、本書をお読みいただくことをお勧めいたします。

### 2009年度 尾道学講座「おのみち温故知新」

日時：2009年10月14日（水）～2009年11月18日（水）

開場18：00 講座18：30～20：00

場所：しまなみ交流館 大会議室

#### 【講座内容】

第1回 10月14日（水） 小谷 範人（経済情報学部経済情報学科）

「米国発金融危機と尾道（日本）経済」

「100年に一度」と言われる米国発金融・経済危機の要因を探り、金融・経済危機が世界経済や日本経済そして尾道経済に与えた影響、および今後の経済の展望について考えます。

第2回 10月21日(水) 下野 由貴(経済情報学部経済情報学科)

「尾道ラーメンの経営学」

尾道を代表する食べ物といえば「尾道ラーメン」。尾道観光の目玉としても注目されている「尾道ラーメン」が、産業としてどのように発展していったのかについて考えます。

第3回 10月28日(水) 鷹橋 明久(芸術文化学部日本文学科)

「頼山陽の詠史詩について」

頼山陽は雄渾かつ迫力みなぎる詠史詩を数多く残しており、この度は歴史上の女性について言及した作品を取り上げ、彼の女性観について考えてみます。

第4回 11月11日(水) 藤川 功和(芸術文化学部日本文学科)

「瀬戸内の〈風景〉－中世文学から読む－」

梓弓磯べに立てるむろの木のとことはうつ鞆の浦浪(『新撰和歌六帖』・為家)は、瀬戸内の〈風景〉が描出された一例です。講座では、演題の「風景」にくく〈〉を付けた意味について、とはずがたりをいたします。

第5回 11月18日(水) 児玉 康兵(芸術文化学部美術学科)

「尾道の石造文化(江戸後期の石造物)」

瀬戸内は、良質な花崗岩の産地であり、古代より現代に至るまでその石材を用い、石工達が尾道商人の財力をバックにその時代の想いを石材に刻み、優れた石造文化を残して来ました。石のまち尾道の側面を彫刻家の目を通し、石工魂に触れてみたいと思います。